

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
（総括）研究報告書

国際化・IT化に対応した視覚障害者の代読・代筆支援マニュアルの作成に
関する研究

研究代表者 木内良明 広島大学大学院医歯薬保健研究院（視覚病態学）教授

研究要旨

近年の国連の障害者権利条約批准の動きと合わせて視覚障がい者の同行援護のサービスに給付が認められた。それを受けて2010年に同行援護従業者の教育テキストが作成され、全国的に標準的な教材として使用されている。広島においても広島市心身障害者福祉センターが2011年からテキストを採用し、広島県眼科医会、広島視覚障がい者の問題を考える会などの関係団体と連携を行いながら同行援護従業者の教育・育成を推進している。このテキストをさらにブラッシュアップすることに加え、1.多言語に対応できるようにすること、2.スマートフォン、タブレット端末などの最新のIT技術の応用できるようにすること、3.個人情報の保護の徹底、を盛り込んだ代読・代筆の支援のための全国共通の新たな標準カリキュラムを作成した。

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名

木村浩彰・広島大学病院（教授）

牟田口辰巳・広島大学大学院教育学研究科（教授）

氏間和仁・広島大学大学院教育学研究科（准教授）

田中武志・広島大学病院（助教）

A．研究目的

視覚障害者が必要とする代読・代筆の支援について、都道府県等の研修会等で活用するための全国共通のマニュアルとなるべき項目を明らかにした標準カリキュラムを作成することを目的とする

B．研究方法

短期間での研究であるため広島市の心身障害者福祉センターで同行援護従事者養成に用いている「同行援護従業者養成研修テキスト」（中央法規出版）（以下、現行テキスト）の代筆・代読部分をベース

医療従事者、研究者、当事者団体、行政関係者（広島県、広島市）からなる Working Group(WG)（総勢 20 名程度）を組織した。そのメンバーで現行テキストの問題点、改善が必要な点を明らかにするための情報収集を行い、改善が必要と思われる部分の記載を追加した。

WG で現行テキストの問題点、改善が必要な点を明らかにした（全員）

タブレット端末スマートフォンを用いた IT 技術を応用した読み取り、翻訳技術の開発（氏間、牟田口）

視覚障がい者の個人情報保護と援護者の倫理について調査した。（木村、田中）

タブレット端末スマートフォンを用いた IT 技術を応用した読み取り、翻訳技術を取得するためのマニュアル作成とマニュアルの有効性を確認するための検証を行った。（氏間、牟田口）

具体例の作成、および全体の文章の書き換えを行った。(全員)

国際的な障がい者権利の推移、一般的注意事項の記載。(木村)

テキスト全体のブラッシュアップ(全員)

(倫理面への配慮)

視覚障がい者、関係医療従事者、教育学部(特別支援教育専攻)の学生、関係団体・行政等に対して、インタビューまたは聞き取り式/自記式のアンケートを実施する。調査の前には広島大学倫理委員会の承認を得る。また、本研究は既刊テキスト編集委員会の承諾を得た。

インタビュー、アンケートの際には事前に口頭で本研究の目的を説明した上で、同意に応じた者のみから回答を得る。同意取得のための説明を行った日時、場所、説明者等必要事項は記録を作成する。

アンケートデータを発表または会議資料として用いる際は、職種や当事者としての立場などの必要な情報以外の個人情報を削除し、回答者の個人が特定できないようにする。

インタビュー、アンケートデータの収集・編集に使った情報メディア(用紙、音声レコーダー、PCなど)は広島大学病院の鍵の掛かる部屋で管理し、研究以外の用途に使用しない。

上記の情報メディアは、研究終了後にデータのコピーをDVD-Rに保存した上で、広島大学の規定に従って消去または処分する。

DVD-Rは10年間保存し、不要の際は広島大学の規定に従って処分する。

C . 研究結果

「障害者の権利に関する条約」についての記載を詳しく行った。

失明の時期(先天盲と後天盲)の違いによる特徴と配慮の記載を行った。

現行マニュアルには具体的な状況の代読例がないために具体例を追加した。

食堂での食事、お弁当の説明、料理の説明、

トイレでの状況説明、グラフの説明、ポスターの説明、売店での買い物、およびカタログによるショッピング場面が追加された。コンピュータの利用・IT化について問題点と現状での対応方法について説明した。ロービジョン技術の応用が有用であることを案内した。

スマートフォン、タブレット端末を利用した代読に有用なアプリを選択し、その使用方法のマニュアルを作成した。またそのマニュアルの有用性を検討した。

D . 考察

実際の同行援護従事者養成研修ではまだこのテキスト案を使用していない。実際の研修での有用性問題点が明らかでない。また、必要とも追われるポイントをすべて網羅した。詳しくすぎる点、他のカリキュラムと重なる点が出てくるかもしれない。今後、研修の場での経験を基に修正する必要がある。

E . 結論

当初掲げたこのテキストをさらにブラッシュアップすることに加えて、1.多言語に対応できるようにすること、2.スマートフォン、タブレット端末などの最新のIT技術の応用できるようにすること、3.個人情報の保護の徹底、を盛り込んだ代読・代筆の支援のための全国共通の新たな標準カリキュラムを作成する。という目的は達成した。

F . 健康危険情報

ない

G . 研究発表

1. 論文発表

Higashide T, Ohkubo S, Sugimoto Y, Kiuchi Y, Sugiyama K. Persistent hypotony after

trabeculectomy: incidence and associated factors in the Collaborative Bleb-Related Infection Incidence and Treatment Study. Jpn J Ophthalmol, In press [Epub ahead of print],2016
Nagasato D, Mitamura Y, Semba K, Akaiwa K, Nagasawa T, Yoshizumi Y, Tabuchi H, **Kiuchi Y**. Correlation between optic nerve head circulation and visual function before and after anti-VEGF therapy for central retinal vein occlusion: prospective, interventional case series. BMC Ophthalmol, 16:36,2016

Nakamura-Shibasaki M, Latief MA, Ko JA, Funaishi K, **Kiuchi Y**. Effects of topical adrenergic agents on prostaglandin E2-induced aqueous flare and intraocular pressure elevation in pigmented rabbits. Jpn J Ophthalmol, 60(2):95-102,2016

Sugimoto Y, Mochizuki H, Ohkubo S, Higashide T, Sugiyama K, Kiuchi Y. Intraocular Pressure Outcomes and Risk Factors for Failure in the Collaborative Bleb-Related Infection Incidence and Treatment Study. Ophthalmology, 122(11):2223-33,2015

2. 学会発表
なし

H . 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし